

第2次世界大戦後の日本において 保健体育教師に求められてきた専門的力量

木原 成一郎・岩田 昌太郎*・松田 泰定
(2004年11月29日受理)

Expectations as the Profession on the Physical Education Teacher in Japan after World War II

Seiichiro KIHARA, Shotaro IWATA and Yasusada MATSUDA

Abstract. The purpose of this study is to survey studies of expectations as the profession on the physical education teacher in Japan after World War II. The results were as follows: 1) from 1970's to 1980's both the ideal studies and the empirical studies were accomplished however after 1990's the ideal studies disappeared; 2) from 1970's to 1980's the empirical studies showed the desirable points and the undesirable points of the image of physical educator as expectations as the profession; 3) after 1990's the empirical studies have clarified the knowledge and the performance as expectations as the profession.

1. はじめに

本研究は、第2次世界大戦後の日本において、保健体育教師の専門的力量に関して行われた研究の動向を整理することを目的とする。なお、第2次大戦後の学習指導要領の記述では、小学校で体育科、中学及び高等学校では保健体育科と教科名が異なっているが、両者とも「体育」と「保健」の2領域から構成されている点は同じである。本研究ではこの2領域のうち、「体育」に限定して論及することとする。

1998年7月に公表された教育職員養成審議会第1次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」は、「教員に求められる資質能力」を「一般に、『専門的職業である「教職」に対する愛着、誇り、一体感に支えられた知識、技能等の総体』といった意味内容を有するもので、『素質』とは区別され後天的に形成可能なものと解される」としている。この答申の「資質能力」は、「専門的職業である『教職』に対する愛着、誇り、一体感」という価値への指向を持つ性行と、それに「支えられた知識、技能等」という習得された

能力の二つに区分されている。「資質能力」のうち、前者は「資質」であり、後者は前者を前提として、「資質」に支えられて身につけられた「能力」と解釈できるように思われる。

この「答申」の「資質能力」の記述に対し、小島(2002)は、「教師の資質と力量は相互に浸透し、融合し、教師の中で統合され、一定の教師スタイル、個性が形づくられる。この場合、資質と力量、または資質と能力は一体化して『資質力量』、『資質能力』として機能する。教師の資質は、その意味で関係概念である」と述べている。

本研究で用いる専門的力量という概念は、先の「教育職員養成審議会第1次答申」で用いられた「資質」と「能力」の双方を含む概念として用いている。つまり、「専門的力量」には、「専門的職業である『教職』に対する愛着、誇り、一体感」という価値への指向を持つ性行である「資質」と、それに「支えられた知識、技能等」という習得された「能力」の二つを含んで用いる。ただし、小島の指摘に学び、その両者は教師個人の中では、「資質能力」として一体化して機能していると捉える。

*広島大学大学院教育学研究科博士課程後期文化教育開発専攻スポーツ教育学分野

本研究では、保健体育教師の専門的力量に関して行われた研究の動向を整理する目的を果たすために、対象とした研究から保健体育教師の「資質能力」にあたると思われる記述を以下のカテゴリーに分類した。つまり、「資質」と「能力」の双方を含む保健体育教師の専門的力量を整理するため、その専門的力量が発揮される場面に着目して「体育授業」「部活動」「生徒指導」の3つの分類カテゴリーを設け、それぞれカテゴリー1、カテゴリー2、カテゴリー3とした。また、それらの3つの場面に区分できない教師の「資質能力」の分類カテゴリーとして「パーソナリティ」を設け、カテゴリー4とした。さらに、NASPEの「National Standards for Beginning Physical Education Teachers」^{注1)}を参考にし、「体育授業」のカテゴリーを、「知識 (knowledge)」「パフォーマンス (performance)」「態度 (dispositions)」のサブカテゴリーに区分し、それぞれカテゴリー1-1、カテゴリー1-2、カテゴリー1-3とした。

なお、検討の対象とした研究を収集する方法は、以下の3つの方法を用いた。第1に、松田泰定(1996)の巻末に掲載された保健体育教員養成関連文献目録より保健体育教師の専門的力量に関する研究と推察できる研究を選択し収集した。松田泰定(1996)は、体育学術誌として『日本体育学会大会号』『体育の科学』『他大学紀要、報告書』について、戦後の教員養成関連の研究の目次を掲載している。今回は『日本体育学会大会号』のみ資料収集の対象とした。なお松田泰定(1996)の文献目録には社会体育指導者の専門的力量に関する研究も含まれているが、保健体育教師の専門的力量的把握を目的とする本研究では社会体育指導者の諸研究は検討の対象から除外した。第2に、戦後行われた体育学研究の「体育教師像」に関する研究の動向を検討した中井隆司(1997)を参照し、そこに掲載されている諸研究から、保健体育教師の専門的力量に関する記述のあると思われる諸研究を選択し閲覧可能であったものを収集した。第3に、松田泰定(1996)は1993年以降の文献を掲載していないので、1993年以降の『日本体育学会大会号(第44, 45, 47, 48, 50, 52回大会号を除く)』の目次及び1999年以降の『スポーツ教育学研究(大会号を含む)』を閲覧し、保健体

育教師の専門的力量に関する研究と考えられる研究を選択し収集した。

なお、1970年代以降、子どもへの質問誌調査や組織的行動観察という経験的方法による数多くの授業研究の成果が蓄積され、そこには教師の教授行動や教授技術に関して多くの知見が蓄積されてきた。これらの授業研究は数多くなされているが、それらは高橋健夫(2000)が整理した「教師行動」を問題にしていると考えられるので、本研究では、高橋健夫(2000)の「総説」論文で、これらの授業研究が問題にした専門的力量を代表することとした。

第2次世界大戦後に日本で行われた保健体育教師の専門的力量に関する研究は、その研究方法により理念的研究と実証的研究に区分されると思われる。理念的研究とは、教師や研究者としての経験や諸外国の文献資料を根拠として、こうあるべき理念としての専門的力量を記述する研究である。また実証的研究とは、質問誌調査や授業観察という経験的方法で得られた資料を根拠として専門的力量を記述する研究である。

それではまず、理念的研究と実証的研究の順に、先に述べた方法で収集された諸研究の概要を年代順に紹介する。実証的研究の概要は主に教師の「資質」を問題にしている研究と主に教師の「能力」を問題にしている研究に区分して検討する。次にそれらの諸研究に記述された専門的力量を先に述べたカテゴリー別に区分し、図1として記述する。なお、概要説明の末尾に(カテゴリー1, 4)のように記し、それぞれの研究に示された専門的力量を図1のどのカテゴリーに区分したかが分かるようにした。最後にこれらの整理から示唆されるこれまでの諸研究の傾向を指摘する。

2. 理念的研究

浅井浅一(1971)は、体育教師が教育者として備えていなければならない性格として、第1に「健康であること」、第2に「専門に優れていること」、第3に「社会性が発達していること」の3点を挙げている(カテゴリー1-1, 1-2, 4)。

阿部忍(1972)は、学生・生徒たちから好まれる教師像を、①愛情豊かでやさしく、真面目で熱心な教師、②人柄の立派な教師、③明朗快活でユーモアに富み、しかも親切で公平な教師、④生

徒ひとりひとりの個性を知り、生徒と一体となり、誠心誠意助力してくれる教師、⑤授業以外に、学校生活全般にわたって指導してくれる教師、⑥専門知識が深く、同時に一般教養も豊かな教師、⑦自由の中にも規律を守り、寛大さのうちに権威を秘めている教師、の7点から特徴づけている(カテゴリ-1-1, 1-2, 4)。

小村渡岐磨他(1975)は、「専門職としての体育教師は、体育・スポーツの実践活動とその指導が中核的な物となる。この実践活動を通して被教育者の人間形成に寄与し、同時に体育教師としての人間性が開発されることになる」と述べている。(カテゴリ-4)

辻野 昭(1975)は、体育科教師の資質について7人の識者の考え方をまとめ、以下の2つの共通した特質を見いだした。それは、①教師としての人間性、②教科内容への深い理解と実践力、である(カテゴリ-1-1, 1-2, 4)。

小村渡岐磨他(1976)は、「体育の専門性の内容」として「1. 指導内容についての専門的知識と技能。2. 被教育者の理解に必要な教育学的・社会学的・心理学的・生理学的・運動学的基本的把握方法。3. 体育指導に関する基本的知識と技能。4. 体育の制度・行政に関する基本的知識。5. 理論と実践の相互媒介をはかる教育実地研究」をあげている。(カテゴリ-1-1, 1-2, 4)。

佐藤良男(1987)は、体育教師の資質を高める7ヶ章として、1. 基盤となる自己研修、2. 仲間と学び合う、3. 校内研修の充実、4. 研究組織・団体等の機能の充実、5. 教育委員会等の行う研修事業の充実、6. 大学・大学院での長期研修、7. 事業内容の見直し、を提示している(カテゴリ-1-3)。

梅本二郎(1987)は、これからの体育教師の資質・能力として、①からだに関する科学的な基礎教養を高める、②運動の楽しさを味わわせる指導力を高める、③社会の変化に積極的かつ柔軟に対応する、④体に無理な負担や体罰のない部活動の指導を推進する、の4つを挙げている(カテゴリ-1-1, 1-2, 2, 4)。

3. 実証的研究

(1) 主に教師の「資質」を問題にしている研究

竹中玉一他(1956)は、中学と高校の他教科の

教師を対象に体育教師に望むことを記入させ、「性格的面、指導的面、教養的面、身体的面、研究的面」への希望があったと報告している。(カテゴリ-4)

飯塚鉄雄他(1967)は、学校長43人を対象とした質問紙法により、彼らが期待する体育科教師像として「幅広くあらゆる身体運動に通じ、できれば得意なスポーツを持ち、教養が高く、人間的に優れ、尊敬できる人物」を得たとしている。(カテゴリ-4)

西垣完彦他(1970)の研究では、高校生を対象にしており、①かなり男性的で社会性があり、やや鋭くて面白く、やや信頼できる反面、やや単純である、②体育教師のイメージは、教師のイメージよりスポーツマンのイメージに近い、という報告がなされている(カテゴリ-4)。

西垣完彦(1972)は、公私立高校保健体育教員114人、他教科教員147名に質問紙調査を行った結果、体育教師は他教科教師と比べて「伝統的・保守的-聖人君子的」「伝統的・保守的-小市民的」なタイプが多いと報告している。(カテゴリ-4)

また、横山一郎(1975)によれば、1965年に横須賀市教育研究所により行われた教師へのアンケート調査の結果を分析し、以下の保健体育教師の特徴を指摘している。①体育教師は聖職性の肯定度が高く約70%を示している。(一般教師73.4%)と、②体育教師の労力配分の割合：授業50%(他教科、50%)、クラブ活動40%(同20%)、校務10%(同30%)クラブ指導に生きがいを感じている体育教師が76%に及ぶ。以上から、「スポーツマン的体育教師」と「教育者の体育教師」の二つのタイプに二分されると指摘(カテゴリ-1-1, 2)。

浅野辰三・森昭三(1971)は、中学校保健体育教師への「保健体育教師としての重視すべき資質」のアンケート調査を実施した。その結果、①実技力(86.7%)②研究意欲(48.3%)③積極性(43.3%)④健康(38.3%)⑤指導力・統制力(38.7%)⑥専門的知識(36.7%)⑦教育への情熱(34.2%)⑧専門の運動歴(26.7%)の8項目があげられた。ただし、この実技力は模範を示すことよりも、自分が「練習することによって何を感じ、何を学んだか」を自分の専門的知識として身につ

け、その専門的知識を指導技術として具体化することと解釈すべきとされている(カテゴリー1-1, 1-2, 1-3, 2, 4)。

前田幹夫(1975)は、高知大学教育学部1年生(100名)を対象に、小・中・高校時代の体育教師を回顧的に分析した結果、①子どもとの結びつきが強く、ともに行動する活動的で明朗な体育教師、②健康ではつらつとし、気力にみちた体育教師、というよいイメージがある反面、①技術中心で、技能ばかり追求している教師、②理論に欠け、命令的、威圧的で恐ろしい感じの風紀を取り締まりの中心のような、③適当にやって時間がくれば終わりという感じで教師としての責任を負っていないような、④体育の授業よりもクラブ活動の指導に熱心な、⑤できる子どもを中心に授業をすすめる、という悪いイメージが報告されている(カテゴリー1-1, 1-2, 1-3, 2, 4)。

松井貞夫(1984)は、小・中・高校生を対象に体育教師像についてアンケート調査をしている。その結果、望ましい特性として以下のようなものがあげられた。小学生が望んでいる優れた体育教師像として、①運動に堪能な教師、②一緒に活動し、よく教えてくれる教師、③明るく、やさしく、きびしい教師、の3項目に、そして中・高校生が望んでいる優れた体育教師像として、①公正で、人間として尊敬できる教師、②専門的な能力と広い教養を持つ教師、③授業を計画的に進めた指導力のある教師、の3項目にそれぞれ集約されていることが報告されている(カテゴリー1-2, 1-2, 1-3, 4)。

秋元圭子他(1980)は、体育教師の役割を下記の12項目と捉え、体育教師と他教科教師との役割評価がずれていると指摘している。「1. 体育の授業、2. 課外運動部の日常の練習指導、3. 課外運動部の対外試合の成績、4. 体育祭などの校内的体育・スポーツ行事、5. 臨海・林間学校などの校外的体育・スポーツ行事、6. 学級経営、7. 進路指導、8. 生活指導、9. 朝会や集会での号令係、10. 職員会議での中心的役割、11. 同僚とのレクリエーション活動、12. 選手としての対外試合出場。」(カテゴリー1-1, 1-2, 1-3)

また、大学生を対象とした遊佐清有(1984)の研究では、「望ましい優れた体育教師の態度・性格で

は、情熱を持つ教師を期待しているとともに、他教科の教師とは違った面、つまり行動を共にすることによる一体感を感じる事が期待され、指導面では楽しい授業をしてくれること、自主的な活動の時間を与えてほしい」ことが、特に多く述べられていたと報告している(カテゴリー1-2, 4)。

賀川昌明(1984)は、中・高校の保健体育教師を対象とした研究で体育教師のイメージを測定する因子を下記のように抽出した。「1. 教師としての一般的資質、2. スポーツマン的性格、3. リーダーシップ、4. スポーツ・運動に関する知識・技能、5. 社会性、6. 体力、7. 内向性、8. 経営能力、9. 対人関係の技術、10. 調和、11. 顕示性、12. 競技の指導活動、13. 外向性、14. 社交性」(カテゴリー4)

賀川昌明(1985)は、中・高校の保健体育教師を対象とした研究で、「体育教師は、責任感、意志が強く、陽気で楽観的であり、また若々しくて体力もあり、他人に対しては目上、目下の区別をわきまえ生徒を管理する能力が高い。そして、学校行事や生徒指導の中心的存在であるとともに、部活動の指導にも熱心である」という体育教師像が導き出された(カテゴリー2, 3, 4)。

平川澄子(1987)は、高校、大学の生徒を対象に「体育教師の指導に従った理由」を「体育教師の勢力資源」として下記のように抽出した。「1. 人間性勢力、2. 罰・威圧性勢力、3. 外見性勢力、4. 専門性勢力、5. 正当性勢力、6. 一般性勢力」(カテゴリー4)

平間 隆ら(1987)の研究では、最も重視された資質は、「生徒を差別せず公平に扱う」という基本的条件であり、加えて技術や体力より専門的知識が重視されていたことが報告されている(カテゴリー1-1, 4)。

杉本厚夫(1988a)は、「体育教師の社会的役割」として下記の項目を抽出し、行動のレベルと認知のレベルのズレを報告している。「1. 体育の授業に関する役割、2. 体育系クラブに関する役割、3. 学校の経営(校務)に関する役割、4. 学校での社会的役割に関する役割」(カテゴリー1-1, 1-2, 2, 3)

杉本厚夫(1988b)の調査によれば、「体育教師のほとんどが、『生徒指導』はやりたくてやっている項目としてあがっており、積極的な関わりを

示している。また、体育教師がしたくてもできないと感じているのは『運動部指導』である。一方、したくはないけれどもしなければならない義務として捉えられているのが『体育教科授業』である」と述べている(カテゴリー1-1, 1-2, 1-3, 2, 3)。

富永徳幸(1985)は、保護者に対して下記の項目に関して保健体育教師の評価度を調査している。「1. 知性, 2. 教育適正, 3. パーソナリティ, 4. 貢献度, 5. 尊敬・信頼」(カテゴリー1-4)

高橋健夫(1996)は、高校時代に教わった体育教師のイメージに関して、大学生(1058名)を対象に62項目からなる調査を実施し、因子分析を施した。その結果、①慕われる人, ②専門的な能力, ③熱心な指導, ④無計画な授業, ⑤恐れ存在, ⑥精神力の強さ, ⑦社会的教養の欠如, ⑧健康的な人, ⑨情意的な授業, ⑩科学的な授業, ⑪狭い専門性, の11因子を抽出した。さらに、それらの結果から、「体力があり、根性があるが、教養に欠け、授業に熱心でなく、恐くて、生徒から慕われない人」という体育教師像が導き出されたと述べている(カテゴリー1-1, 4)。

渡辺保志他(2004)は、小, 中, 高校の教師を対象に質問紙調査を行い、下記の6因子を「教師の資質」として取り出した。「社会的資質」「職業的資質」「情緒的資質」「付加的資質」「身体的資質」「人間関係の資質」(カテゴリー4)

(2) 主に教師の「能力」を問題にしている研究

松岡重信(1977)は、「教授行動の言語活動」を「運動スキルの習得に関連する認識進化の機能, 集団形成の機能, 経営管理の機能」に区分し、熟練教師と教育実習生の授業事例の観察結果を比較して前者は後者に対して認識進化の機能が多く、経営管理の機能が少ないと指摘した。(カテゴリー1-2)

梶浦英善(1982)は、小学校教員養成課程3年生及び小学校免許取得通信教育受講生計760人を対象に質問紙調査を行い次の4つの観点について傾向を報告した。「1. 自身の実技能力, 2. 示範能力, 3. 体育の好き嫌い, 体力, 性格, 4. 児童期の体育・スポーツ活動に関する考え方」(カテゴリー1-1, 1-2, 1-3)

勝亦紘一他(1984)は、中学校及び高校での教育実習生を対象に次の項目について「体育授業で力不足を感じた」ことを選択させた。「1. 生徒を上手に把握することができない, 2. 説明の仕方や話し方, 3. 実技が上手にできない, 4. 効果的な授業展開ができない, 5. 教材研究の不足, 6. 集団行動の指導, 7. 専門的な知識の不足」(カテゴリー1-1, 1-2)

メ木一郎(1990)は、小学校の教育実習生を対象に下記の項目に関して意識調査を行った。「1. 集団への指示, 2. 指導技術, 3. 示範, 4. 言語動作, 5. 授業運営」(カテゴリー1-2)

小昆賀恵理他(1995)は小学校教員を対象に「体育授業指導に求められる力量」を下記の項目について意識調査した。「示範を示す実技力」「取り上げる種目の教材解釈」「授業の進め方」「子どもの心理や様子を掌握する知識・技術」「体育に関する専門的知識」「教え方や教材・教具についての知識・技術」「運動技術を向上させるための指導法」「学習集団のまとめ方」「子どもの学習活動を正しく評価する知識・技術」(カテゴリー1-1, 1-2)

中井隆司他(1995, 1999)は、2名の教師を対象に、体育授業についての教師の知識と意志決定の関係を検討した。教師の知識は、「授業についての教師の知識領域」に関するインタビュー法で収集し分類された。また、教師の意志決定は、刺激再生法により授業の発問場面を見た教師の発話が収集され分類された。その結果、体育授業についての教師の知識は、「『教材内容』『教授方法』『子ども』の3つの基礎的な知識領域とそれらの複合された4つの知識領域の計7領域」からなるとされた。また授業計画段階における教師の意志決定は、この7領域からなる教師の知識が支えとなっていることが確認された。(カテゴリー1-1)

鈴木理(1998)は、アメリカのエキスパタイズ研究の動向を分析し、「生徒のつまずきを見抜く力」「学習内容を周到に計画する力」「生徒の技能差への対応能力」「学習指導への熱意」がエキスパタイズの基礎をなすとされていると報告している(カテゴリー1-1, 1-2)

濱田晴明他(2000)は経営学のリーダーシップ理論を適用し、2名の教師の体育授業を観察し、教師の体育授業の指導スタイルを「指示型」「コ

一チ型」「支援型」「委任型」の4観点で分析している(カテゴリー1-2)

高橋健夫(2000)は、1970年代以降子どもへの質問誌調査や組織的行動観察という経験的方法によって行われた数多くの授業研究の成果を整理し、それらの研究がアメリカのシーデントップの提案をもとに日本の授業を対象とした実証により「マネージメント、相互作用、直接的指導、巡視」を抽出し「4大教師行動」と名付けたとした。またこれらの研究では、教師の「教師行動」のひとつである「相互作用」の中から、CAFIAS観察法で用いられた「賞賛や励まし、生徒の意見の受理と活用、発問、説明や課題提示、指示、批判」(高橋健夫, 2000, p.154)をとりだし、子どもによる授業評価との関係が分析された。(カテゴリー1-2)

森博文他(2000)は、12名の小学校教諭及び3名の教員養成課程の学生を対象に、体育授業を観察させた時の教師の発話のプロトコルをKJ法により分類し、体育授業観察者が授業を「深く」観察する際の観点として、「アナウンス」「コメント」「アクト」というカテゴリーを取り出した。「アナウンス」は、「生起している事実を述べている」言説であり、「コメント」は「事実に加え、理由や根拠のない観察者の価値判断を述べている」言説であり、「アクト」は「事実に加え、観察者の理由や根拠を伴った価値判断を述べている」言説とされた。(カテゴリー1-1)

中井隆司(2001)は、1970年代以降に国内外で行われた教師の指向プロセスに関する諸研究を概観し、それらを「教師の知識と思考に関する研究」と「教師の意志決定に関する研究」と「教師の思考プロセスにかんする研究」に区分した。そして、それらの研究が事例的研究という特徴を持つことを指摘するとともに、一般的な言明を導くためには方法論としての課題を持つと指摘した。(カテゴリー1-1)

日野克博(2002)は愛媛大学教育学部学生を対象とした模擬授業において期間記録法による授業評価を実施し、「学習指導」「認知的学習」「運動学習」「マネージメント」「相互作用」に関して受講生の教師行動の変化を実証している。(カテゴリー1-2)

上原禎弘他(2002)は小学校高学年9名の教師

の体育授業中の発話を分析し、学習集団機能を高めるために必要な「言語的相互作用」(カテゴリー1-2)の特質を考察している。

厚東芳樹他(2003)は、単なる教師と子どもの考えの「ズレ」とは異なる「教師や子どもの意図と計算を裏切って、そこに新しい状況と関係を現出させるもの」という「出来事」(辻延浩他, 2001)に注目した教師の授業中の気づきを研究した。その結果、教師の「出来事」に対する推論と対処の仕方を組み合わせたカテゴリーとして以下の7つを抽出した。「1. 印象的推論」「2. 心情的推論・理解志向的対処」「3. 合理的推論・理解志向的対処」「4. 文脈的推論・理解志向的対処」「5. 心情的推論・目的志向的対処」「6. 合理的推論・目的志向的対処」「7. 文脈的推論・目的志向的対処」またこれらのカテゴリーからなる「出来事」に関する気づきは、態度得点及び経験年数から見た教師の熟練度の相違の影響を強く受けることを確認した。(カテゴリー1-1)

岩田昌太郎他(2004)は、全国の高校保健体育教師に質問紙調査を行い「体育授業で求められる実践的な知識」として次の7因子を抽出した。「①指導技術、②領域別指導技術、③教材・教育機器、④学習の誘発、⑤指導形態、⑥教育計画、⑦評価」(カテゴリー1-1, 1-2)

森博文他(2004)は、熟練教師と未熟練教師を対象に授業観察時の発話プロトコルを分析し、「アナウンス」「コメント」「アクト」というカテゴリーについて両者の結果を量と質の観点から比較している。(カテゴリー1-1)

4. 結果と考察

2の理念的研究と3の実証的研究で概観した諸研究に記述された専門的力量を、先に設定した7つのカテゴリーに基づき分類した。その結果を図1に示した。この図1から以下のような傾向が読み取れた。

第1に、1970年代から1980年代は理念的研究と実証的研究が同程度に行われた。しかし、1990年以降2004年までは理念的研究は姿を消し実証的研究のみになった。

第2に、実証的研究に関しては、1970年代から1980年代にかけて体育教師像の理想や実態について、質問紙を用いた因子分析法による研究が数多

くなされた。生徒の側から見た体育教師像は、前田幹夫(1975)が指摘しているように、個人としては「①子どもとの結びつきが強く、ともに行動する活動的で明朗」「②健康ではつらつとし、気力にみちた」というよいイメージがある反面、授業や生徒指導の場面では「①技術中心」「②理論に欠け、命令的、威圧的」「③適当にやっって時間がくれば終わりという感じ」「④体育の授業よりもクラブ活動の指導に熱心」「⑤できる子どもを中心に授業をすすめる」という悪いイメージが報告されている。

この結果は、体育教師の意識からも裏付けられている。つまり、杉本厚夫(1988b)によれば、「体育教師のほとんどが、『生徒指導』はやりたくてやっている項目」であり、「体育教師がしたくてもできないと感じているのは『運動部指導』である。一方、したくはないけれどしなければならない義務として捉えられているのが『体育教科授業』である」という。

第3に、1990年代以降組織的な行動観察法による実証的研究により「教師行動」として観察できる「パフォーマンス」について多くの研究が蓄積されるとともに、教師の「知識」については質的方法による実証的研究が行われ、体育授業の専門

的資質に関する研究が蓄積されてきた。

つまり、高橋健夫(2000)が述べた「マネジメント、相互作用、直接的指導、巡視」の「4大教師行動」や、「賞賛や励まし、生徒の意見の受理と活用、発問、説明や課題提示、指示、批判」という教師の「相互作用」が子どもの授業評価と深い関係をもつという指摘である。また、中井隆司他(1995, 1999)が述べるように、「『教材内容』『教授方法』『子ども』の3つの基礎的な知識領域とそれらの複合された4つの知識領域の計7領域」が教師の授業の計画から実践、反省の過程に存在するとされてきた。

1990年代においても、高橋健夫(1996)が指摘するように「体力があり、根性があるが、教養に欠け、授業に熱心でなく、恐くて、生徒から慕われない人」という体育教師のイメージが大学生に一般的であるという。今後、専門的力量として求められる「知識」や「パフォーマンス」に関する1990年代以降の研究成果を教員養成や現職教育に活用する取り組みが求められる。なお、体育授業に関する信念である「態度」の意味内容に関する実証的研究がまだ着手されていない。今後求められる研究と思われる。

表1 戦後の日本における研究の中で記述された保健体育教師の専門的力量

カテゴリ-1・体育授業			カテゴリ-2 部活動	カテゴリ-3 生徒指導	カテゴリ-4 パーソナリティ
カテゴリ-1-1 知識 (knowledge)	カテゴリ-1-2 パフォーマンス (performance)	カテゴリ-1-3 態度 (dispositions)			
理念的研究 浅井浅一(1971) ・専門に優れていること 阿部 忍(1972) ⑥専門知識が深く、同時に一般教養も豊かな教師 辻野 昭(1975) ②教科内容への深い理解と実践力である。 小村渡岐磨他(1976) ・「1. 指導内容についての専門的知識と技能。2. 被教育者の理解に必要な教育学的・社会学的・心理学的・生理学的・運動学的の基本的把握方法。3. 体育指導に関する基本的知識と技能。4. 体育	理念的研究 浅井浅一(1971) ・専門に優れていること 弘中栄子(1972) ②多様なスポーツに堪能であること 辻野 昭(1975) ②教科内容への深い理解と実践力である。 小村渡岐磨他(1976) ・「1. 指導内容についての専門的知識と技能。2. 被教育者の理解に必要な教育学的・社会学的・心理学的・生理学的・運動学的の基本的把握方法。3. 体育指導に関する基本的知識と技能。5. 理論	理念的研究 高田典衛(1982) 1. 子ども(小・中・高・大)と運動 佐藤良男(1987) 1. 基盤となる自己研修 2. 仲間と学び合う 梅本二郎(1987) ④体に無理な負担や体罰ない部活動を推進する	理念的研究 阿部 忍(1972) ⑤授業以外に、学校生活全般にわたって指導してくれる教師 梅本二郎(1987) ④体に無理な負担や体罰ない部活動を推進する	理念的研究 浅井浅一(1971) ・健康であること ・社会性が発達していること 阿部 忍(1972) ①愛情豊かでやさしく、真面目で熱心な教師 ②人柄の立派な教師 ③明朗快活でユーモアに富み、しかも親切で公平な教師 ④生徒ひとりひとりの個性を知り、生徒と一体となり、誠心誠意助力してくれる教師 ⑦自由の中にも規律を守り、寛大さのうちに権威を秘め	

<p>の制度・行政に関する基本的知識」</p> <p>梅本二郎 (1987) ①からだに関する科学的な基礎教養を高める。</p>	<p>と実践の相互媒介をはかる教育実地研究」</p> <p>梅本二郎 (1987) ②運動の楽しさを味わわせる指導力を高める。</p>			<p>ている教師</p> <p>小村渡岐磨他(1975) ・「専門職としての体育教師は、体育・スポーツの実践活動とその指導が中核的な物となる。この実践活動を通して被教育者の人間形成に寄与し、同時に体育教師としての人間性が開発されることになる」</p> <p>辻野 昭 (1975) ①教師としての人間性</p> <p>梅本二郎 (1987) ③社会の変化に積極的かつ柔軟に対応する。</p>
<p>実証的研究 浅野辰三・森 昭三(1971) ⑥専門的知識</p> <p>横山一郎 (1975) 「教育者の体育教師」</p> <p>前田幹夫 (1975) 悪いイメージ ②理論に欠け、命令的、威圧的で恐ろしい感じの風紀を取り締まりの中心</p> <p>小村渡岐磨他 (1976) ・「1. 指導内容についての専門的知識と技能。2. 被教育者の理解に必要な教育学的・社会学的・心理学的・生理学的・運動学的基本的把握方法, 3. 体育指導に関する基本的知識と技能, 4. 体育の制度・行政に関する基本的知識, 5. 理論と実践の相互媒介をはかる教育実地研究」</p> <p>秋元圭子他 (1980) ・体育教師の役割「1. 体育の授業」</p> <p>梶浦英善 (1982) ・小学校教員「1. 自身の実技能力, 2. 示範能力, 3. 体育の好き嫌い, 体力, 性格, 4. 児童期の体育・スポーツ活動に関する考え方」</p> <p>勝亦紘一他 (1984) ・中学校及び高校での教育実習生の「体育授業で力不足を感じた」こと。「5. 教材研究の不足,</p>	<p>実証的研究 浅野辰三・森 昭三(1971) ①実技力 ⑤指導力・統制力</p> <p>前田幹夫 (1975) 悪いイメージ ①技術中心で、技能ばかり追求している教師</p> <p>小村渡岐磨他 (1976) ・「1. 指導内容についての専門的知識と技能。2. 被教育者の理解に必要な教育学的・社会学的・心理学的・生理学的・運動学的基本的把握方法, 3. 体育指導に関する基本的知識と技能, 4. 体育の制度・行政に関する基本的知識, 5. 理論と実践の相互媒介をはかる教育実地研究」</p> <p>松岡重信 (1977) ・「教授行動の言語活動」を「運動スキルの習得に関連する認識進化の機能, 集団形成の機能, 経営管理の機能」に区分</p> <p>梶浦英善 (1982) ・小学校教員「1. 自身の実技能力, 2. 示範能力」</p> <p>松井貞夫 (1984) 小学生が望んでいる優れた体育教師像 ①運動に堪能な教師</p> <p>中・高校生が望んでいる優れた体育教師像 ③授業を計画的に進めた指導力のある教師</p>	<p>実証的研究 浅野辰三・森昭三 (1971) ②研究意欲 ③積極性</p> <p>前田幹夫 (1975) 悪いイメージ ③適当にやって時間がくれば終わりという感じで教師としての責任を負っていない ⑤できる子どもを中心に授業をすすめる。</p> <p>梶浦英善 (1982) ・小学校教員「3. 体育の好き嫌い, 体力, 性格」</p> <p>松井貞夫 (1984) 小学生が望んでいる優れた体育教師像 ②一緒に活動し、よく教えてくれる教師</p> <p>杉本厚夫(1988b) ・したくはないけれどもしなければならぬ義務として提えられているのが「体育教科授業」である。 ・「述べている。</p> <p>鈴木 理 (1998) ・「学習指導への熱意」</p>	<p>実証的研究 浅野辰三・森 昭三 (1971) ⑧専門的運動歴</p> <p>横山一郎 (1975) 「スポーツマン的体育教師」</p> <p>前田幹夫 (1975) 悪いイメージ ④体育の授業よりもクラブ活動の指導に熱心</p> <p>秋元圭子他 (1980) ・体育教師の役割「2. 課外運動部の日常の練習指導, 3. 課外運動部の対外試合の成績。」</p> <p>賀川昌明 (1985) 「体育教師は、部活動の指導にも熱心である」</p> <p>杉本厚夫 (1988a)</p>	<p>実証的研究 竹中玉一他 (1956) ・「性格的面, 指導的面, 教養的面, 身体的面, 研究的面」</p> <p>飯塚鉄雄他 (1967) ・「幅広くあらゆる身体運動に通じ、できれば得意なスポーツを持ち、教養が高く、人間的に優れ、尊敬できる人物」</p> <p>西垣完彦ら (1970) ①かなり男性的で社会性があり、やや鋭くて面白く、やや信頼できる反面、やや単純である ②体育教師のイメージは、教師のイメージよりスポーツマンのイメージに近い</p> <p>浅野辰三・森昭三(1971) ④健康 ⑦教育への情熱</p> <p>西垣完彦 (1972) ・体育教師は他教科教師と比べて「伝統的・保守の一型人君子的」「伝統的・保守的一小市民的」傾向が強い</p> <p>前田幹夫 (1975) よいイメージ ①子どもとの結びつきが強く、ともに行動する活動的で明朗な体育教師 ②健康ではつらつとし、気力にみちた体育教師</p>

<p>7. 専門的な知識の不足]</p>	<p>遊佐清有 (1984) 望ましい優れた体育教師の指導面</p>	<p>・「体育教師の社会的役割」</p>	<p>秋元圭子他 (1980) ・体育教師の役割「10. 職員会議での中心的役割, 11. 同僚とのレクリエーション活動, 12. 選手としての対外試合出場。」</p>
<p>松井貞夫 (1984) 中・高校生が望んでいる優れた体育教師像 ②専門的な能力と広い教養を持つ教師</p>	<p>・楽しい授業をしてくれること, 自主的な活動の時間を与えてほしい。</p>	<p>杉本厚夫 (1988b) 「体育教師のほとんどが, 『生徒指導』はやりたくてやっている項目</p>	<p>松井貞夫 (1984) 小学生が望んでいる優れた体育教師像: ③明るく, やさしく, きびしい教師 中・高校生が望んでいる優れた体育教師像: ①公正で, 人間として尊敬できる教師</p>
<p>平間 隆ら (1987) 技術や体力より専門的知識が重視</p>	<p>勝亦紘一他 (1984) ・中学校及び高校での教育実習生の「体育授業で力不足を感じた」こと。 「1. 生徒を上手に把握することができない, 2. 説明の仕方や話し方, 3. 実技が上手にできない, 4. 効果的な授業展開ができない, 6. 集団行動の指導」</p>	<p>杉本厚夫 (1988b) 体育教師がしたくてもできないと感じているのは「運動部指導」である。</p>	<p>遊佐清有 (1984) 望ましい優れた体育教師の態度・性格 ・情熱を持つ教師を期待しているとともに, 他教科の教師とは違った面, つまり行動を共にすることによる一体感を感じることが期待されている。</p>
<p>杉本厚夫 (1988a) ・「体育教師の社会的役割」 「1. 体育の授業に関する役割」</p>	<p>杉本厚夫 (1988a) ・「体育教師の社会的役割」 「1. 体育の授業に関する役割」</p>	<p>杉本厚夫 (1988b) ・したくはないけれどもしなければならない義務として捉えられているのが「体育教科授業」であると述べている。</p>	<p>賀川昌明 (1984) ・中・高校の体育教師のイメージ「1. 教師としての一般的資質, 2. スポーツマン的性格, 3. リーダーシップ, 4. スポーツ・運動に関する知識・技能, 5. 社会性, 6. 体力, 7. 内向性, 8. 経営能力, 9. 対人関係の技術, 10. 調和, 11. 顕示性, 12. 競技の指導活動, 13. 外向性, 14. 社交性」</p>
<p>杉本厚夫 (1988b) ・したくはないけれどもしなければならない義務として捉えられているのが「体育教科授業」であると述べている。</p>	<p>杉本厚夫 (1988b) ・したくはないけれどもしなければならない義務として捉えられているのが「体育教科授業」であると述べている。</p>	<p>木 一 郎 (1990) ・小学校の教育実習生を対象に下記の項目に関して意識調査を行った。「1. 集団への指示, 2. 指導技術, 3. 示範, 4. 言語動作, 5. 授業運営」</p>	<p>賀川昌明 (1985) 「体育教師は, 責任感, 意志が強く, 陽気で楽観的であり, また若々しくて体力もあり, 他人に対しては目上, 目下の区別をわきまえ生徒を管理する能力が高い。そして, 学校行事や生徒指導の中心的存在であるとともに, 部活動の指導にも熱心である」という体育教師像が導き出された。</p>
<p>小昆賀恵理他 (1995) ・「子どもの心理や様子を掌握する知識・技術」 「授業の進め方」 「取り上げる種目の教材解釈」 「体育に関する専門的知識」 「教え方や教材・教具についての知識・技術」 「学習集団のまとめ方」 「子どもの学習活動を正しく評価する知識・技術」</p>	<p>小昆賀恵理他 (1995) ・「示範を示す実技力」 「授業の進め方」 「子どもの心理や様子を掌握する知識・技術」 「教え方や教材・教具についての知識・技術」 「運動技術を向上させるための指導法」 「学習集団のまとめ方」 「子どもの学習活動を正しく評価する知識・技術」</p>	<p>高橋健夫 (1996) 体育教師像を大胆にイメージ ・「体力があり, 根性があるが, 教養に欠け, 授業に熱心でなく, 恐くて, 生徒から慕われない人」ということになると述べている。</p>	<p>富永徳幸 (1985) ・保護者に対して下記の項目に関して保健体育教師の評価度を調査している。「1. 知性, 2. 教育適正,</p>
<p>高橋健夫 (1996) 体育教師像を大胆にイメージ ・「体力があり, 根性があるが, 教養に欠け, 授業に熱心でなく, 恐くて, 生徒から慕われない人」ということになると述べている。</p>	<p>鈴木 理 (1998) ・「生徒のつまずきを見抜く力」 「学習内容を周到に計画する力」 「生徒の技能差への対応能力」</p>	<p>高橋健夫 (2000) ・「マネージメント, 相互作用, 直接的指導, 巡視」を抽出し「4大教師行動」と名付けた。またこれらの研究では, 教師の「教師行動」のひとつである「相互作用」の中から, CAFIAS観察法で用いら</p>	<p>鈴木 理 (1998) ・「生徒のつまずきを見抜く力」 「学習内容を周到に計画する力」 「生徒の技能差への対応能力」</p>
<p>中井隆司他 (1995, 1999) ・「教材内容」 「教授方法」 「子ども」の3つの基礎的な知識領域とそれらの複合された4つの知識領域の計7領域</p>	<p>鈴木 理 (1998) ・「生徒のつまずきを見抜く力」 「学習内容を周到に計画する力」 「生徒の技能差への対応能力」</p>	<p>高橋健夫 (2000) ・「マネージメント, 相互作用, 直接的指導, 巡視」を抽出し「4大教師行動」と名付けた。またこれらの研究では, 教師の「教師行動」のひとつである「相互作用」の中から, CAFIAS観察法で用いら</p>	<p>鈴木 理 (1998) ・「生徒のつまずきを見抜く力」 「学習内容を周到に計画する力」 「生徒の技能差への対応能力」</p>
<p>鈴木 理 (1998) ・「生徒のつまずきを見抜く力」 「学習内容を周到に計画する力」 「生徒の技能差への対応能力」</p>	<p>高橋健夫 (2000) ・「マネージメント, 相互作用, 直接的指導, 巡視」を抽出し「4大教師行動」と名付けた。またこれらの研究では, 教師の「教師行動」のひとつである「相互作用」の中から, CAFIAS観察法で用いら</p>	<p>高橋健夫 (2000) ・「マネージメント, 相互作用, 直接的指導, 巡視」を抽出し「4大教師行動」と名付けた。またこれらの研究では, 教師の「教師行動」のひとつである「相互作用」の中から, CAFIAS観察法で用いら</p>	<p>鈴木 理 (1998) ・「生徒のつまずきを見抜く力」 「学習内容を周到に計画する力」 「生徒の技能差への対応能力」</p>
<p>森 博文他 (2000) ・「アナウンス」 「コメント」 「アクト」</p>	<p>高橋健夫 (2000) ・「マネージメント, 相互作用, 直接的指導, 巡視」を抽出し「4大教師行動」と名付けた。またこれらの研究では, 教師の「教師行動」のひとつである「相互作用」の中から, CAFIAS観察法で用いら</p>	<p>高橋健夫 (2000) ・「マネージメント, 相互作用, 直接的指導, 巡視」を抽出し「4大教師行動」と名付けた。またこれらの研究では, 教師の「教師行動」のひとつである「相互作用」の中から, CAFIAS観察法で用いら</p>	<p>鈴木 理 (1998) ・「生徒のつまずきを見抜く力」 「学習内容を周到に計画する力」 「生徒の技能差への対応能力」</p>
<p>中井隆司 (2001) ・「教師の知識と思考に関する研究」 「教師の意志決定に関する研究」 「教</p>	<p>高橋健夫 (2000) ・「マネージメント, 相互作用, 直接的指導, 巡視」を抽出し「4大教師行動」と名付けた。またこれらの研究では, 教師の「教師行動」のひとつである「相互作用」の中から, CAFIAS観察法で用いら</p>	<p>高橋健夫 (2000) ・「マネージメント, 相互作用, 直接的指導, 巡視」を抽出し「4大教師行動」と名付けた。またこれらの研究では, 教師の「教師行動」のひとつである「相互作用」の中から, CAFIAS観察法で用いら</p>	<p>鈴木 理 (1998) ・「生徒のつまずきを見抜く力」 「学習内容を周到に計画する力」 「生徒の技能差への対応能力」</p>

<p>師の思考プロセスにかんする研究」</p> <p>厚東芳樹他(2003) ・「1. 印象的推論」「2. 心情的推論・理解志向的対処」「3. 合理的推論・理解志向的対処」「4. 文脈的推論・理解志向的対処」「5. 心情的推論・目的志向的対処」「6. 合理的推論・目的志向的対処」「7. 文脈的推論・目的志向的対処」</p> <p>上原禎弘(2002) ・「言語的相互作用」</p> <p>岩田昌太郎他(2004) ・「①指導技術, ②領域別指導技術, ③教材・教育機器, ④学習の誘発, ⑤指導形態, ⑥教育計画, ⑦評価」</p> <p>森博文他(2004) 「アナウンス」「コメント」「アクト」</p>	<p>れた「賞賛や励まし, 生徒の意見の受理と活用, 発問, 説明や課題提示, 指示, 批判」が問題にされている。</p> <p>濱田晴明他(2000) 「指示型」「コーチ型」「支援型」「委任型」</p> <p>日野克博(2002) ・「学習指導」「認知的学習」「運動学習」「マネジメント」「相互作用」</p> <p>上原禎弘他(2002) ・「言語的相互作用」</p> <p>岩田昌太郎他(2004) ・「①指導技術, ②領域別指導技術, ③教材・教育機器, ④学習の誘発, ⑤指導形態, ⑥教育計画, ⑦評価」</p>		<p>3. パーソナリティ, 4. 貢献度, 5. 尊敬・信頼」</p> <p>平間 隆ら(1987) ・最も重視された資質は, 「生徒を差別せず公平に扱う」という基本的条件</p> <p>平川澄子(1987) ・「体育教師の勢力資源」として下記のように抽出した。「1. 人間性勢力, 2. 罰・威圧性勢力, 3. 外見性勢力, 4. 専門性勢力, 5. 正当性勢力, 6. 一般性勢力」</p> <p>高橋健夫(1996) 体育教師像を大胆にイメージ ・「体力があり, 根性があるが, 教養に欠け, 授業に熱心でなく, 恐くて, 生徒から慕われない人」ということになるかと述べている。</p> <p>渡辺保志他(2004) ・「社会的資質」「職業的資質」「情緒的資質」「付加的資質」「身体的資質」「人間関係的資質」</p>
--	---	--	--

附 記

本研究は科学研究費補助金, 基盤研究(B)(1)「実践的力量を形成する体育教師教育プログラム開発のための実証的研究」(研究代表者: 木原成一郎, 課題番号 15300214) 及び基盤研究(B)(1)「反省の実践家の教師像を育成する教師教育カリキュラム開発のための理論的実証的研究」(研究代表者: 磯崎哲夫, 課題番号 14380107) の補助を受けて行った成果の一部である。

注

1. NASPEはThe National Association for Sport and Physical Educationの略であり, 全米体育・スポーツ協会と訳されるアメリカの全国的な体育専門職団体である。本研究で用いた「知識(knowledge)」「パフォーマンス(performance)」「態度(dispositions)」はそれぞれ, 次のように説明されている。「知識: 学校教育で体育

の授業を教える初任の教師が概念的に知り理解する必要がある教材内容」「パフォーマンス: 学校教育で体育の授業を教える初任の教師に不可欠な実演される成果」「態度: 実践のための専門職としての倫理的な基礎となる体育の授業についての基本的な態度や信念や想定」NASPE(2002), Standards for Beginning Physical Education Teachers, p.29.
(http://www.aahperd.org/naspe/pdf_files/input_beginning.pdf)

文 献

1. 秋元圭子他(1980)「体育教師の内的葛藤に関する研究(2)」『日本体育学会第31回大会号』p.734
2. 阿部 忍(1972)『体育哲学』逍遙書院, pp.62-72
3. 浅井浅一(1971)「体育教師の学内的・社会

- 的地位」体育原理研究会編『体育教師像・武道の現代化（第5版）』不昧堂出版，pp.9-22
4. 浅野辰三他（1972）『保健体育科教員養成カリキュラムの検討』体育の科学Vol.22 No.8
 5. 飯塚鉄雄他（1967）「体育学専攻の動機と期待される体育教師像：体育学会第18回大会」『体育学研究』XⅡ-5，p.263
 6. 岩田昌太郎他（2004）「体育授業の実践に求められる知識」『日本体育学会第55回大会号』p.636
 7. 梅本二郎（1987）「これからの体育教師に求められる資質・能力」『学校体育』Vol.40(14)，pp.14-22
 8. 小昆賀恵理他（1995）「体育指導の力量形成に関する調査研究」『日本体育学会第46回大会号』p.644
 9. 梶浦英善（1982）「小学校体育指導に係わる指導者の意識について」『日本体育学会第33回大会号』p.856
 10. 勝亦紘一他（1984）「保健体育科の教育実習に関する調査研究」『日本体育学会第35回大会号』p.763
 11. 上原禎弘他（2002）「小学校体育授業における教師の言語的相互作用の適切性に関する研究」『日本体育学会第53回大会号』p.599
 12. 賀川昌明（1984）「体育教師に関する研究－同僚の体育教師の対するイメージについて－」『日本体育学会第35回大会号』p.835
 13. 賀川昌明（1985）「体育教師像に関する研究－同僚の体育教師の対するイメージについて－」『徳島大学教養部紀要（保健体育）』Vol.18，pp.21-29
 14. 教育職員養成審議会『新たな時代に向けた教員養成の改善方策について（第1次答申）』（平成9年7月）
 15. 厚東芳樹他（2003）「学習成果及び経験年数の相違が授業中の『出来事』に対する教師の気づきに及ぼす影響」『日本体育学会第54回大会号』p.626
 16. 小島弘道（2002）『教師の条件』学文社
 17. 小村渡岐磨他（1975）「体育教師像の変遷」『日本体育学会第24回大会号』p.111
 18. 小村渡岐磨他（1976）「体育教師像の一考察－教員養成に関連して－」『日本体育学会第26回大会号』p.80
 19. 佐伯聰夫（1992）「21世紀の体育教師像」『体育科教育』Vol.40(6)，pp.14-17
 20. 佐藤良男（1987）「体育教師の資質を高める7ヶ章」『学校体育』Vol.40(14)，pp.23-28
 21. メ木一郎（1990）「教員養成課程の学生の教育実習における教科体育への意識1」『日本体育学会第41回大会号』p.748
 22. 杉本厚夫（1988a）「体育教師の社会学1」『日本体育学会第39回大会号』p.801
 23. 杉本厚夫（1988b）「体育教師の社会的アンビバランス」『京都体育学研究』第4巻，pp.1-11
 24. 鈴木理（1998）「教員養成プログラム改善のための基礎的研究(1)」『日本体育学会第49回大会号』p.650
 25. 高橋健夫（1994）『体育の授業を創る』大修館書店
 26. 高橋健夫（1996）「今こそ問われる体育教師の専門性」『体育科教育』Vol.44，No.3，pp.21-24
 27. 竹中玉一他（1956）「理想的体育教師について：体育学会第7回大会」『体育学研究』Ⅲ-1，p.118.
 28. 辻延浩他（2001）「体育授業研究法の過去・現在・未来－『出来事』に焦点をあてた授業研究－」『Proceedings of the International Conference for the 20th Anniversary of the Japanese Society of Sport Education（日本スポーツ教育学会20周年記念国際学会大会プロシーディングス）』pp.71-76
 29. 辻野昭（1975）「中学校体育教師の現状と諸問題」教員養成大学学部教官研究集会保健体育教育部会『保健体育科教育の研究』不昧堂出版，pp.206-215
 30. 富永徳幸（1985）「体育教師の社会的評価に関する研究」『日本体育学会第36回大会号』p.125
 31. 中井隆司他（1995）「体育授業における教師の知識の検討」『日本体育学会第46回大会号』p.643
 32. 中井隆司（1997）「体育教師論」竹田清彦他編（1997）『体育科教育学の探求：体育授業づくりの基礎理論』大修館書店，pp.382-396

33. 中井隆司他 (1999) 「体育授業における教師の知識と意志決定に関する研究」『スポーツ教育学研究』第19巻第1号, pp.87-100
34. 中井隆司 (2001) 「体育授業研究法の過去・現在・未来 - 教師の知識研究の立場から -」『Proceedings of the International Conference for the 20th Anniversary of the Japanese Society of Sport Education (日本スポーツ教育学会20周年記念国際学会大会プロシーディングス)』pp.69-70
35. 中井隆司 (2002) 「小学校体育授業における教師の実践的力量に関する研究」『スポーツ教育学研究: 第22回大会号』p.43
36. 中村敏雄 (1966) 「求められている体育教師」『体育の原理』不味堂, Vol.2, pp.93-100
37. 中村敏雄 (1989) 『教師のための体育教材論』創文企画, p.111
38. 西垣完彦・寺沢 猛・中島豊雄 (1970) 「体育教師についての社会学的研究 - 高校生の体育教師イメージについて -」『体育学研究』Vol.15
39. 西垣完彦 (1972) 「体育教師の教職意識とその類型化について」『日本体育学会第22回大会号』p.65.
40. 日野克博 (2002) 「教育実習生の体育授業における教師行動の特徴」『日本体育学会第53回大会号』p.597
41. 平川澄子 (1987) 「体育教師の勢力資源に関する研究」『日本体育学会第38回大会号』p.140
42. 濱田晴明他 (2000) 「教師のリーダーシップ能力育成の試み」『日本体育学会第51回大会号』p.504
43. 平間 隆・杉原 隆 (1987) 「児童・生徒からみた理想的な体育教師像」『学校体育』Vol.40, No.6, pp.132-137
44. 藤枝静正他 (2002) 『教師をめざす』学文社
45. 前田幹夫 (1975) 「新しい体育教師像を求めて」成田十次郎他編『保健・体育科教育の教師論 (第2版)』日本体育社, pp.71-86
46. 松井貞夫 (1984) 「小・中・高校生が望んでいる優れた体育教師像」『体育の科学』Vol.34, No.1, pp.13-18, 杏林書院
47. 松岡重信 (1977) 「体育授業の最適化に関する研究(3)」『日本体育学会第28回大会号』p.556
48. 松田泰定 (1996) 「教員養成学部における初等体育カリキュラムの研究」(文部省科学研究費報告書, 平成5・6・7年度 (一般研究C) 研究課題番号05680089)
49. 森 博文他 (2000) 「体育授業観察者の『思考』に関する研究」『スポーツ教育学研究』第20巻第2号, pp.65-76
50. 森 博文他 (2004) 「教職経験年数の違いによる授業観察時の志向の差異」『日本体育学会第55回大会号』p.602
51. 遊佐清有 (1984) 「大学生が望んでいる優れた体育教師像」『体育の科学』Vol.34, No.1, pp.19-22
52. 横山一郎 (1975) 「体育教師の生活と意識」成田十次郎他編『保健・体育科教育の教師論 (第2版)』日本体育社, pp.54-70
53. 渡辺保志他 (2004) 「教師に問われる資質」『日本体育学会第55回大会』p.601